

第 46 回国際無脊椎動物病理学会報告

東京農工大学大学院農学府応用遺伝生態学研究室 新井 詠子

第 46 回国際無脊椎動物病理学会が、2013 年 8 月 11 日から 15 日にアメリカのペンシルベニア州ピッツバーグで行われました。海外での学会でしたが、国際学会渡航旅費のご援助をいただいたことで安心して準備を整え、参加することができました。世界各国から大勢の研究者が一同に集まり、交流できたことは大変貴重な体験となりました。これまでに論文でしか見たことのなかった、あるいはメールでしかやり取りできなかった研究者の方々の講演を間近で聴き、顔を合わせて議論したことで、今後の研究の新しい道が開け、また論文の投稿という目標の実現に一步近づくことができました。また自分の専門分野に関わらず様々な最新の研究成果を知ることは、大いに刺激になりました。以下に、本学会で学んだこと、体験したことについてご報告をさせていただきます。

本学会が行われたピッツバーグは、二本の川が合流している特徴的な地形をしており、夏でも涼しく湿度も高くないため、過ごしやすい魅力的な都市です。また、野球場やアメリカンフットボール球場などスポーツでも有名で、活気ある街であったことが印象的でした。この地で行われた今年の学会では、昆虫病原微生物である糸状菌、微胞子虫、線虫、ウイルス、有益生物の病気、細菌と微生物防除の 7 分野に分かれており、それぞれ口頭発表、ポスター発表や討議などが行われました。私は現在の研究分野であるウイルスの分野に主に参加し、世界各国の研究者の発表を傾聴しました。発表はすべて英語で行われたため、普段聞き慣れないネイティブの英語には苦戦しましたが、わかりやすい発表スライドや、抑揚のある話し方が大変すばらしく、夢中で聞き入っていました。

ウイルス分野における今年の重要なトピックの一つとして、次世代シーケンサーを用いた研究に焦点があてられており、この手法を用いた解析が昆虫における新規ウイルスの発見に貢献したという報告などがありました。その他、昆虫ウイルスの全ゲノム解析やウイルスの多様性の検出などに有用であるとの報告もありました。私自身も以前にこの技術を利用したウイルスゲノムの解析に携わったことがあり、非常に興味深く拝聴させていただきました。これまでのシーケンス解析は長い時間を要するなどといったことが難点とされてきましたが、次世代シーケンサーの開発とその利用の普及が、この分野の可能性を大きく広げていくのではないかと感じました。

また、本学会では連日様々なイベントが組まれており、研究者同士のコミュニケーションを図る機会が多くあります。学会 3 日目には美術館を見学し、芸術にも触れる時間がありました。さらに午後には、5 km のマラソン大会が開催され、各国の研究者と一緒に汗を流しました。マラソン中は参加者同士でお互いを励まし合い、時には研究の話も交えながら終始楽しく走りきることができました。その日の夕食では、船上でバーベキューを楽しみました。船上から見える夜景はとても綺麗で、日本では見られない光景に感動しました。学会 4 日目には、学生向けのワークショップが開かれ、学会役員の先生方が参加学生に向けて講義をしてくださいました。今年は、良いポスターの書き方についてレクチャーしていただきました。学会では口頭発表だけでなく、ポスターで参加

することも多くあります。ポスターは一枚の大きな紙に、詳細かつ簡潔に研究をまとめなくてはなりません。読みやすいポスターを作成するには、読み手の立場に立ち、配置や字数など細かいところまで気を配ることが大切であると知りました。また、絵や図、写真など、一目で理解できるポスターが人の興味を引きつけることも今回のワークショップで学びました。

今回のポスター発表には、当研究室からも私を含め 3 人の学生が参加しました。英語で自分の研究を説明し、また相手の疑問を正しく理解しそれに答えるということは大変難しく、終始緊張しながらの発表となりました。しかし同時に、この無脊椎動物病理学会がいかにも有意義なものであるかを感じられる時間でもありました。本学会には前述の通り様々な分野を専門とする研究者の方々が参加されていました。同じようにウイルスを専門とする研究者の方からアドバイスをいただくこともあれば、私のウイルス研究の中で用いられていた寄生蜂に着目し、寄生蜂についての知識を多く持つ方から貴重なご指摘をいただくこともありました。また一口にウイルス研究者と言っても、一人ひとりが異なる視点や得意とする手法を持っていらしたのが印象的で、御意見をうかがうことで自身の研究の幅が大きく広がったように感じました。ポスター発表の場で話しきれなかったことについて、ロビーや食事の場でお話しする機会をいただくこともできました。今回は宿泊するホテルが会場となっていたこともあり、定められた発表時間外でも研究者の方々と交流する機会が多かったように思います。

今回の学会参加は今後の研究への励みになりました。このような機会を与えていただけたことに、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



←船上で研究者の方々と

↓受賞した関口さんを囲んで

